

「家がいいね」 第260号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2026.1.5



新年の夜も更けて来た今
人通りは昼ほどではないが
それでも絶えることはない
神宮の神は願いは聞かない
誓いや決意だけが魂で届く
静かな時がその助けになる
お前は誰とどう生きるのか
で何をしようと生きるのか
自分のしたことを引受ける
覚悟は確かにと聽かれた

ヒトサマは、ウマく行くことばかり考えるが

干支で言う午（うま）年であるので、年賀状に馬の絵や謹が用いられる。馬は権力の象徴、千軍万馬、天馬空を行く、馬が合う、生き馬の目を抜く、などと勢いある言葉の反面、馬にしたらまたらない状況も説明される。馬車馬のように働く、馬の耳に念仏、馬脚を露す、馬齢を重ねる、人を射んとせばまず馬を射よ。「どこの馬の骨？」と人間侮蔑として使われる。ひどいものではないか。

人間(じんかん)万事塞翁が馬は、禍福は糾(あきな)える
縄の如しと同義語。塞翁は占い人、慶事にも喜ばず、災難に気落ちせず、他人の評価を越えた人生の継続と悲哀を、息子と共に経験したわけである。人生は一時ではなく気長に考えようと思つ。

生まれた自分は生きるに価（あたい）する

昭和も通算すると百年。悲惨な戦争を体験した世代が消え「新しい戦前」の雰囲気が濃くなつた。

基本的人権とは、生まれながらの生命と同様に、無条件の権利で、題字の意味そのものだ。しかし今の総理以下、国権をその上に置こうと画策しています。義務を果たさない人に人権は無いと言う大臣さん居ます。差別の考え方から思い浮かばない感じです。他者への理解や寛容は遠い事でしょう。

力が支配する極限は戦争です。他国に攻め込むのを軍事作戦と言うのは、力に奢る者だけです。昭和百年の間に、日本は沢山の標語を作り、沢山の人を死なしめて来た。国権ファーストは嫌だ。

移転計画がスタート その4

百五銀行（旧新道支店）1階は、徐々に改修中です。新しいクリニックとするため、名称も下記のように変更します。
医療法人あゆみ会は、18年継続。途中で、縁（えにし）の家を併設。今回、いせ在宅クリニックとあえて医療を標榜しないのは、人生の最期まで支援するのは、医療以上のものが大事と認識するからです。街の縁を、再構成するために努力します。

ホームホスピスあこやを もう一度 伊勢に！

8年前に伊勢に誕生した「あこや」が昨年7月に突然閉じられた。転居した翌日に1名、一ヶ月後に1名と逝去。あこやで命をつないだことが分かった。もう一つの家。施設に無いものを持つ場所。手放した貴重なものを思い出すために京都へ。



2026年2月21日(土)12:30~15:40



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<https://isezaitaku.com>



→バックナンバ閲覧可



休診のお願い 2月21日（土） 臨時休診します

1月28日（水）
2月25日（水）
3月25日（水）
毎月第4水曜日は、
緩和ケアチームの
研修で休診の予定。

いせ在宅クリニック
医療法人 あゆみ会